

築地体後期五号仮名

現在まで影響を与え続けている完成度の高い美しい書体

小宮山博史

築地活版を代表する仮名書体です。築地活版が五号仮名をいつこの後期五号仮名に切り替えたのかは調査不足でわかりませんが、たぶん築地活版の種字彫り師の練度が最高潮に達した明治三〇年代中頃ではないでしょうか。明治三六年の『活版見本』の「五号片平仮名書体見本」はすでに後期五号仮名に替わっています。★図三七

覆刻の資料とした見本帳は、大正二（一九一三）年三月改正『五号明朝活字総数見（以下不明）』です。★図三八

『活版見本』を見ると、後期五号の「と」の縦画は「点」の形をとり、私達がいま見慣れている縦に作る「と」は使われていません。「お」「え」は「於」「江」の草体（今では変体仮名と）が入っています。

五號楷書書體見本

本邦古昔與中華三韓未通信使此時唯有自上古所傳誦品物之方言與言辭之俗語而無漢字之相雜迨與三韓中華相通而後假用異音爲倭音而相雜之變爲我邦之俗語品物之名稱爾來本邦上古之言語漸而亡矣今也氏間其存者幾希只上古之祝詞及日本紀萬葉集等所載和歌之詞所存者是而已然如上世品物之名稱今猶存者多矣如順和名抄所載是也其變而稱倭名者亦不鮮矣其言語名稱及後世漢字之聲音與當時之俗語名稱相雜而爲言歷世以來彌變矣其鄙俚者因任氏俗之所稱也今舉世所稱之俗語併和語與漢字連音與訓而作語其內無文理者多矣其甚者併音與訓而連續而爲一物之名者亦多矣

全假名交り書體見本

徳川氏に至り林道春父子博學高才を以て文章一世を風靡し漸く四六の風習を脱せり蓋し我國の文は初より六朝の文を尚びしに茲に至て韓柳以下の文を責び文體又大に變せり然れども未だ和習を免るゝ能はざりしに荻生徂徠の起るに及び此弊を一洗せんと欲し明の李攀龍王世貞等の文に依り古文辭を修め一世を風靡せり

假名ノ製作アリテヨリ婦女子ハ専ラ之ニ依リテ消息ヲ通ジ男子モ亦往々之ヲ用キシコト物語草子ノ類ニ多ク見ユ彼ノ今昔物語ニ載セタル藍人ノ文源平盛衰記ニ見エタル俊寛ノ女ノ文ノ如キモ亦此類ナリ

五號片平假名書體見本

(SMALL PICA BODY)

イロハニホヘトチリヌルヲワカヨタレソツチナラムウキノオクヤマケフコ
エテアサキユメミシエヒモセスンガギグゲゴザジズゼゾダヂヅデドバビブ
ベボバビブベボトキルノヅ、バー々々々々々々

いろはにほへとちりぬるをわかよたれそつねならむうゑのたお
くやまけふこねえてあはさきゆめめしあゝゑひもせすんがぎぐげござじ
あゝすぜろだちづでごどはむびぶべほふはむびぶべろ、ゝゝとととと

いろはにほへとちりぬるをわかよたれそつねならむうゑのたくやまけふこ
ねてあさきゆめめしゑひもせすんがぎぐげござじすせぞだちづでごばび
ぶべほばびぶべほゝゝとととと

いろはにほへとちりぬるをわかよたれそつねならむうゑのたくやまけふこ
ねてあさきゆめめしゑひもせすんがぎぐげござじすせぞだちづでごばび
ぶべほばびぶべほゝゝとととと

す。「え」の字形は万葉仮名のほうに入っていますが「お」の字形は入っておらず、この時点では「お」の字形は作られていなかったのかもしれない。大正二年の見本帳の「平仮名及び付属物」も草体の「於」と「江」ですが、「万葉仮名」として「お」「え」が入っており、縦画を垂直に作る「と」も入っています。片仮名は水平を指向していた前期五号のデザインをすて、毛筆楷書にのっとった字形にまとめられています。

後期五号仮名の字形は、手書きの自然な美しさを失うことなく正方形への無理のない定型化がすすんでいます。種字彫り師は、明治五年平野富二に乞われて入社して以来三〇年、研鑽を積み彫り師として爛熟期を迎えた竹口芳五郎ではないかとひそかに思っています。この書体はこののち多くの印刷所、活字鋳造所によって複製・改刻され日本全土に広がっていきました。その結果本文用仮名は豊かな書体群を構築することができ、変化にとんだタイポグラフィを展開しながら今にいたります。

ここで改刻とはどの程度の違いをいうのか見てみましょう。書体の改良は読者にはほとんど目につくことがありませんが、注意して見れば、それが「改悪」でなければ印刷面はたしかに以前とは違って明るく、目に余計な刺激がないなど感じるはずす。

明治初年のことですが、わが国の母型師の草分けで、のちに名人母型師字母^{じふ}吉と称された小倉吉蔵は最初平野活版で仕事をしていました。

明治八年母型の製法を学ぶために上海に派遣されましたが、理由はわかりませんが帰国後会社に戻らず、日本各地の活版製造所をまわって技術を伝えたそうです。この後も上海に渡り母型制作の技術を極めたため、母型

★築地体後期五号仮名（二五級）

あ めつちほしそらやまか
は みねたにくもきりむろこけ
ひ どといぬうへすゑゆわさる
お ふせよえのをなれぬてん
ゝ いとどとく
ア メツチホシソラヤマカハミ
ネ タニクモキリムロコケヒト
イ ヌウヘスエユワサルオフセ
ヨ エノヲナレキテンハバ

★游樂五号仮名 50 WS（二五級）

あ めつちほしそらやまか
は みねたにくもきりむろこけ
ひ とといぬうへすゑゆわさる
お ふせよえのをなれぬてん
ゝ いとどとく
ア メツチホシソラヤマカハミ
ネ タニクモキリムロコケヒト
イ ヌウヘスエユワサルオフセ
ヨ エノヲナレキテンハバ

★図三八……東京築地活版製造所『五号明朝活字総数見（以下不明）』の後半部分。ラインアップが増え、豊かな五号書体群を構成していることがわかる。

【五〇～一五五頁参照】

之程奉願候也

○平假名及び附属物

[illegible]

○ 萬葉假名

たれどかゝるにたふすおを去りにせ

○片假名及び附屬物

2015.12.25

○ 二分ノ一平型

2015年12月31日

役後徒御徑得德微念性感慢意應成我截戸房所手扱折技抹拂拿拾指抄
帽幣幅干平年幹序店府度座庫庭庵廣廳建井式貳弓引弗張彌彙形影
尻局尾居屈屋屬山岐岡岩島崎嶋川州巡工已巴巾市布希希師帳幌帶常
威娛子字存學季宇安宗官定室客宮宴容宿家富密察實審寶寺對小少尺
堂域堅報塚塗塞墓塙境增墨亮臺夏多外夜大數太央奈拳女坡妙姪姬
員唇唐哩間商嘉喉噲器噉嚴同回因固國園園圖土地坂坐址坪型城壘
厚參又友及取叢口古可句司各合吉同名后吏君呈吳告呂吸吾味和呼品
券則刺前剖割劑力加効勅動勢募勝旬化北匠區午半南博印却卵卷厘原
價償元光兜入內全兩公共兵其具冬凡出函刀分切刊列別判刷刺刻制
仲任伊休件伯但位供例佛作使來依便保信俱倍倉候借倅健傘備價催
丁上下不世丙中丸丹主之久乘乙乳乾事井亞亡交京人仁他付代以仙令

○ コ ャ ャ ャ 形

ジザジザジザジザジザジザジザジザジザジザジザジザジザジザジザ
ジボモゾゾゾゾゾゾゾゾゾゾゾゾゾゾゾゾゾゾゾゾゾゾゾゾゾゾゾゾ
ロニリズルヲヲヲヲヲヲヲヲヲヲヲヲヲヲヲヲヲヲヲヲヲヲヲヲヲヲ

株式会社東京築地活版製造所

○ 電 信 用 片 假 名

一二三四五六七八九十廿百千万

幕卿百里野金鈴銀珠鐵蝦長間阪防阪電轉教順順館香馬醫高鶴鹿馬
繁行防捕製西見角話誠諸谷藤資賀足路軍辛弊辰運造造道達郎傳郡傳
立竹第等節繁篠蘆橋糸緒祖林縣美而聚間舍溜良片共荒荷菱高藝藤葉
熊片販物款玉理際生產周胆甲中町留番受登白日相知石所敵神福密館
條梨森楠葉榮借橋橋憤次正殖毛江池河治法津活海澄液瀧清演火采封
所承拾捌捌敬數整文斐新方旅日明景書會月有朝本本本札村東松林株
尾屋山岡崎川州己巳市帝帳帳帳平年庚席庫式貳弗強陣志愛戊戌戊戸
品和員商園園地取羅堂崎櫻驛士壬壹多大天奇奈奧媛子宇宇安寅富鳥
省函切消科券關前加功贈番北區午南卿印厘厚原參及日吉台合同呼命
丁上下丑且丙中丸之乙井次京今債仝停佛作保修信備假元入內公共兵

○ 一 分 ノ 一 整 型

千万々

萬院院院院院院院院院院院院院院院院院院院院院院院院院院院院院
越見車車車車車車車車車車車車車車車車車車車車車車車車車車車車
車院得車院院院院院院院院院院院院院院院院院院院院院院院院院院院
○ 一二三四五六七八九十廿百

挨振掛挫授掌接推換摺播撮支收改政敍教敷整天文斐斗斟斤斯新斷方
於施族旅日旭昆明時智景暮曜曰早更書替會月有服朝期木本札未材
村松東果枚板林染柘架柳株栖桂根桐菜條案棧梅棕檉森植業檣構樂標
樓檣機檣橋檣檢櫻權次歌歐止正武歲歸死殿母每毒比毛氏氣水永求汗
池沒汽油治泥河法泡波沼泉注洋洲活派浪海消津浦浴淵清淺測港溫湯
減滑瀉漆準漢演滿澁澳濟潮濞澤瀆瀉瀑濃瀧火灰災炭無然煉照熱燈燒
營燭爲爵爾版牒牙牛物特狀狹獄獨玉王玖班瑤理現瑞環鑄瓦生產用田
由甲申町界畠番路畧書當疊症病療登發白的皇皮盆盛監盡盧目直相着
省眞眼矢知石砂破硝硫碑歷礪示社祝神祖祭福禮科秘移稅程種種稻積
穗空突穿富立章端竹竺筵符第等答筋筋筑筭管箱範簡節篆築篠籍米
粉粕精穀糖糠糸紅約紗紙絮素素索紡純細結網絞絡給絹經網維綿緒線
綿編縞縣總績織繩繪繰績缺鍾置羅羊義羽考者耳聞職肉肘股肥肩育
背豚胛胙胛胙胙胙胙胙胙胙胙胙胙胙胙胙胙胙胙胙胙胙胙胙胙胙胙
舞松柏良色艸芝花苔芋莢苑茶草荷華菅荳萬落葉著蕝而產暮新蔽藍藤
藝藥蘭號虫蚊蠅蠅蠅蠅蠅蠅蠅蠅蠅蠅蠅蠅蠅蠅蠅蠅蠅蠅蠅蠅蠅蠅蠅

觀解言訂計劃設計診詔評詞註試詰話詳詩誌認語說誤談論諸諾請講
證警譯議變谷豐象豫負財貨販貴買貯賀資實賞貴質贊賴購赤起足趾距
路跼踖踖踖踖踖踖踖踖踖踖踖踖踖踖踖踖踖踖踖踖踖踖踖踖踖踖踖踖
那郎郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡
鐵鑄鑄鑄鑄鑄鑄鑄鑄鑄鑄鑄鑄鑄鑄鑄鑄鑄鑄鑄鑄鑄鑄鑄鑄鑄鑄鑄鑄鑄
雨電震露青非面革鞞靴音項須順頓頓頓頓頓頓頓頓頓頓頓頓頓頓頓
駁騰驛驗骨體高魚魯鮮鯉鳥鴨鷄鷹墟鹽麥麵麻黃黑鼻龍龜〇一二三四
五六七八九一十士三廿卅百千万
イロハニホヘトチリヌルヲカヨタレソツネ子ナラムウ井ノオクヤ
マケフコエテアサキユメシエヒモセスニ「片庄」ガギグゲゴザジ
スセリタチツテトハビフヘホウハビブヘホ、
○ 印 物

株式会社東京製紙造紙製造所

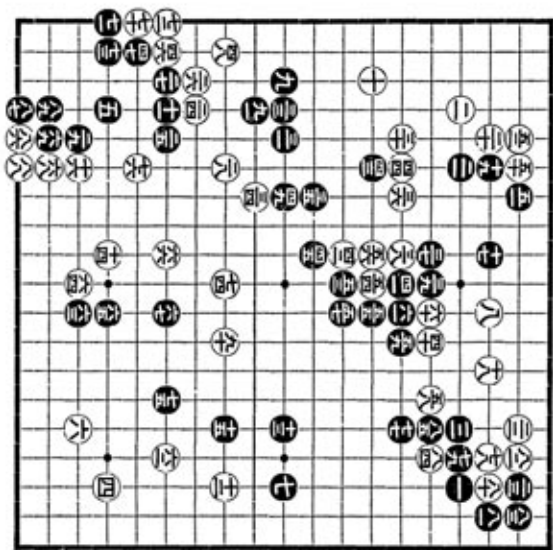
東京經濟學社發行

㊦ ㊧ ㊨ ㊩ ㊪ ㊫ ㊬ ㊭ ㊮ ㊯ ㊰ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

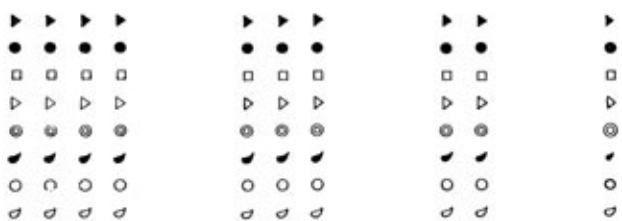
一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 百 千 万 萬 億 兆 金 圓 錢 厘 毫 分 〇

[illegible]

(十ボイン角)



(一) 但シ一種五個以上ノ外賣不仕(候)



○五號四分ノ一明約物

○七號二分の一約物

制作にかんして小倉吉蔵の右に出るものはいなかったといわれています。

この名人母型師小倉吉蔵の長男が小倉宗吉で、祖父の名前を受け継いでいます。この字母宗こと小倉宗吉が昭和七年一月発行したパンフレット『名刺と葉書用見本』には「築地形五号平仮名」という名前で後期五号を改刻した平仮名が載っています。★図三九

後期五号とくらべると、「は」の最後の止めの位置が少し上に上がって軽くなっていることがわかります。改良といってもいいでしょう。「と」は終筆部が短くなっていますが、私は後期五号の「と」のほうが美しいと思います。「た」は脈絡を切っています。「お」は縦画が垂直に近くなっています。後期五号はやや左に倒す作り方ですが、改刻後のほうが動きはありませんが安定感があります。「あ」は縦画と左下へのハライが離れ空きを作っています。後期五号は左下へのハライが縦画から出ていますので、三角形の空間はありません。「ひ」は曲線で囲まれたふところが広がっています。

「せ」も左右の縦画間を広げています。後期五号と字母宗五号を拡大して合わせてみればもっと違いがでると思いますが、ちょっと見ただけでも平仮名清音四八字中七字が替わっていることがわかれると思います。この七字で見たような些細な変更が改刻の程度です。改刻は新しく種字を新刻するか、既製の活字の表面を目の細かい砥石ですり、少し線が太くなったところで彫刻刀で線の位置を変えながら細めていくかの、どちらかの方法によります。後者は「サラエ」という技術で、昭和になってから案出されたといわれていますが、もっと早くから

★築地体後期五号平仮名（二五級）

いろはにほへとちりぬる
をわかよたれそつねなら
むうゐのおくやまけふこ
えきてあさゆめみしゑひ
もせすんがぐざげござじ
すせだちづでとばびぶ
べばびぶべ

★図三九——小倉宗吉「名刺と葉書用見本」（昭和七年一月発行）の表紙



